

春は別れと出会いの季節

市内各小中学校で卒業式が行われた。3月17日の祐津小学校での卒業式は、あいにくの雨だったが、卒業していく児童たちの気持ちを表しているようだった。「中学校でも仲良くして、勉強に頑張りましょう。」と児童はみんなに別れの言葉を言った。先生は「友達は今後の君たちの心の支えになります。一生付き合える友達を見つけ、中学校でも頑張ってください」とエールを送った。学校、先生方に別れを惜しむ児童の涙目は、中学校への期待に満ち溢れていた。(各小中学校の卒業式は32ページに掲載)



市報
4月
No.12

とらみ

CONTENTS

- 特集1 17年度市の予算(32,169人のための予算)(2~9)
- 特集2 スペシャルオリックスは問いかける(10~21)
- 子育てのしやすい市を目指して(22~25)
- 変わります 国民年金保険税率(26~27)



平成17年会計別総括表

※一般会計及び特別会計

(単位：千円)

会計別	平成17年度	平成16年度	増減	
	予算額(A)	予算額(B)	金額(A-B)	率(%)
一般会計	13,437,000	14,802,000	△1,365,000	△9.2
国民健康保険特別会計	2,405,000	2,350,000	55,000	2.3
老人保健特別会計	2,768,000	3,135,400	△367,400	△11.7
介護保険特別会計	1,788,000	1,827,600	△39,600	△2.2
地域改善地区住宅改修資金等 貸付事業特別会計	16,302	36,970	△20,668	△55.9
公共下水道事業特別会計	1,344,000	1,295,700	48,300	3.7
特定環境保全公共下水道 事業特別会計	156,000	139,000	17,000	12.2
農業集落排水事業特別会計	492,000	441,500	50,500	11.4
工業地域開発事業特別会計	337,000	359,300	△22,300	△6.2
公共用地取得特別会計	7,552	7,760	△208	△2.7
有線テレビ特別会計	64,000	65,800	△1,800	△2.7
地域特別賃貸住宅事業 特別会計	—	5,500	△5,500	皆減
工業用水事業特別会計	—	3,900	△3,900	皆減
診療所特別会計	—	135,800	△135,800	皆減
特別会計合計	9,377,854	9,804,230	△426,376	△4.3
総額	22,814,854	24,606,230	△1,791,376	△7.3

※公営企業会計

(単位：千円)

水道事業 会計	収益的支出	692,854	717,585	△24,731	△3.4
	資本的支出	315,538	316,416	△878	△0.3
	計	1,008,392	1,034,001	△25,609	△2.5
病院事業 会計	収益的支出	1,473,877	1,328,818	145,059	10.9
	資本的支出	15,400	82,781	△67,381	△81.4
	計	1,489,277	1,411,599	77,678	5.5

一般会計

134億3700万円

〈前年対比9.2%減〉

平成17年度東御市予算の概要

本年度の予算は一般会計と10の特別会計及び2つの公営企業会計からなっています。

特別会計は、地域改善地区住宅改修資金等貸付事業特別会計を一般会計へ、診療所特別会計を病院事業会計へ編入し、工業用水事業特別会計を廃止したため、前年度に比べ3会計が減少しました。

昨年度は合併直後であったため4月からは暫定予算でスタートし、6月の定例会において通常予算が議決されましたが、本年度は4月から通常予算となっています。

予算額は、一般会計で歳入歳出総額134億3700万円(対前年度▲9.2%)、国民健康保険特別会計外9の特別会計の合計額で93億7785万円(同▲4.3%)、公営企業会計の水道事業会計で10億839万円(同▲2.5%)、病院事業会計で14億8千928万円(同5.5%)となっています。

本年度の予算は一般会計と10の特別会計及び2つの公営企業会計からなっています。

特別会計は、地域改善地区住宅改修資金等貸付事業特別会計を一般会計へ、診療所特別会計を病院事業会計へ編入し、工業用水事業特別会計を廃止したため、前年度に比べ3会計が減少しました。

昨年度は合併直後であったため4月からは暫定予算でスタートし、6月の定例会において通常予算が議決されましたが、本年度は4月から通常予算となっています。

予算額は、一般会計で歳入歳出総額134億3700万円(対前年度▲9.2%)、国民健康保険特別会計外9の特別会計の合計額で93億7785万円(同▲4.3%)、公営企業会計の水道事業会計で10億839万円(同▲2.5%)、病院事業会計で14億8千928万円(同5.5%)となっています。

32,169人

(総人口：3月1日現在)

のための



予算を構成する5つのキーワード — budget for 32,169 people of tomi.

Key word
支えあい
夢を
結ぶまち
5

Key word
未来を
担う人を
結ぶまち
4

Key word
健やかさ
安心を
結ぶまち
3

Key word
活力を
産業に
結ぶまち
2

Key word
さわやかさ
を暮らしに
結ぶまち
1

予算

tomi city **2** years.

市づくり元年の予算

東御市となり2年目がスタートし、平成17年度の予算が決まりました。

昨年度は暫定予算でスタートし6月で通常予算となりました。本年度は4月から通常予算であり、東御市が実質的に歩み出す「市づくり元年」の年といえます。本年度の予算の概要についてお知らせします。



一般会計歳入歳出予算総括表 [歳入]

	平成17年度		平成16年度		増減	
	予算額(A)	構成比(%)	予算額(B)	構成比(%)	金額(A-B)	率(%)
市 税	3,669,638	27.3	3,622,799	24.5	46,839	1.3
地 方 譲 与 税	291,000	2.2	234,000	1.6	57,000	24.4
利子割交付金	23,000	0.2	23,000	0.2	0	0.0
配当割交付金	2,500	0.0	1	0.0	2,499	超過
株式等譲渡所得割交付金	20	0.0	1	0.0	19	超過
地方消費税交付金	298,000	2.2	298,000	2.0	0	0.0
ゴルフ場利用税交付金	11,000	0.1	11,000	0.1	0	0.0
自動車取得税交付金	83,000	0.6	83,000	0.6	0	0.0
地方特例交付金	107,000	0.8	110,000	0.7	△3,000	△2.7
地方交付税	4,146,000	30.9	3,920,000	26.5	226,000	5.8
交通安全対策特別交付金	5,600	0.0	5,600	0.0	0	0.0
分担金及び負担金	314,506	2.3	377,947	2.5	△63,441	△16.8
使用料及び手数料	569,379	4.2	682,756	4.6	△113,377	△16.6
国庫支出金	586,988	4.4	755,045	5.1	△168,057	△22.3
県支出金	544,157	4.0	698,713	4.7	△154,556	△22.1
財産収入	25,424	0.2	24,577	0.2	847	3.4
寄付金	8,088	0.1	1,011	0.0	7,077	700.0
繰入金	533,737	4.0	82,028	0.6	451,709	550.7
繰越金	50,080	0.4	-	-	50,080	皆増
諸収入	315,083	2.3	2,325,822	15.7	△2,010,739	△86.5
市 債	1,852,800	13.8	1,546,700	10.4	306,100	19.8
歳入合計	13,437,000	100.0	14,802,000	100.0	△1,365,000	△9.2

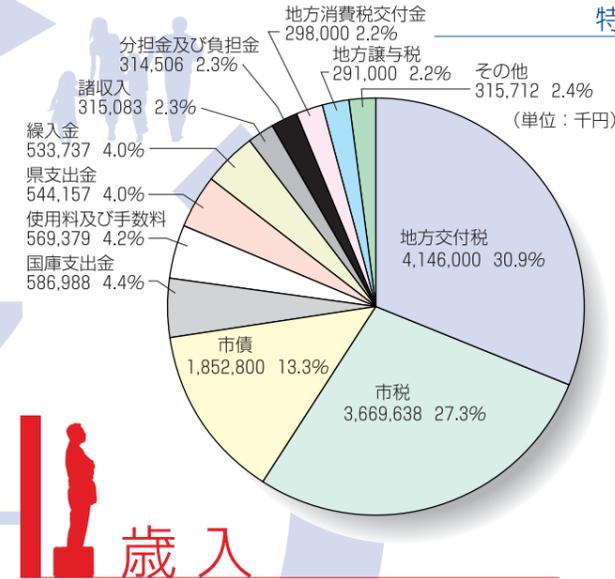
[歳出]

	平成17年度		平成16年度		増減	
	予算額(A)	構成比(%)	予算額(B)	構成比(%)	金額(A-B)	率(%)
議 会 費	152,205	1.1	182,357	1.2	△30,152	△16.5
総 務 費	1,523,406	11.3	3,059,970	20.7	△1,536,564	△50.2
民 生 費	2,709,023	20.2	2,646,619	17.9	62,404	2.4
衛 生 費	1,855,401	13.8	1,015,196	6.9	840,205	82.8
農 林 水 産 業 費	1,066,967	8.0	1,112,757	7.5	△45,790	△4.1
商 工 費	735,250	5.5	847,687	5.7	△112,437	△13.3
土 木 費	1,657,641	12.3	1,814,474	12.2	△156,833	△8.6
消 防 費	380,933	2.8	425,084	2.9	△44,151	△10.4
教 育 費	1,510,303	11.3	1,312,677	8.9	197,626	15.1
公 債 費	1,811,774	13.5	2,233,365	15.1	△421,591	△18.9
災 害 復 旧 費	4,097	0.0	6,814	0.0	△2,717	△39.9
予 備 費	30,000	0.2	145,000	1.0	△115,000	△79.3
歳出合計	13,437,000	100.0	14,802,000	100.0	△1,365,000	△9.2



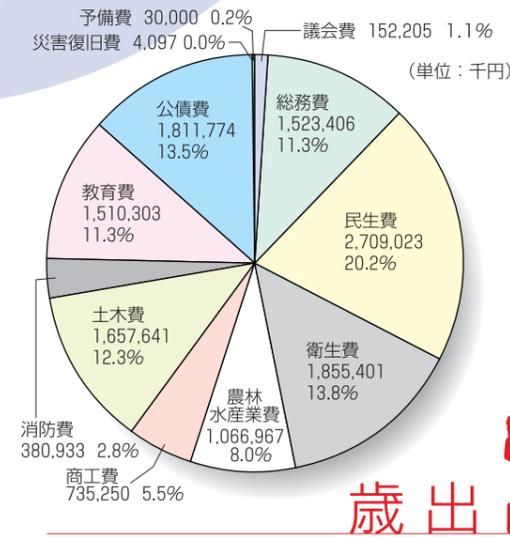
特集/17年度市の予算(32,169人のための予算)

Budget for 32,169 People of Tomi.



歳入

主な歳入は地方交付税41億4,600万円(歳入第1位)、市税36億6,963万円(同第2位)、市債18億5,280万円(同第3位、合併特例債を含む。)となっています。特別な歳入として、合併した市町村に対する国・県からの財政支援である合併特例債(13億6,650万円)、国の合併補助金(2,600万円)、県の合併特例交付金(2,005万円)の収入を見込みました。



歳出

目的別での上位3つの予算額は、民生費が27億902万円と全体の中で1番目の予算額となっています。次いで衛生費の18億5,540万円で、上田地域広域連合への東部クリーンセンター排ガス高度化処理施設整備事業負担金8億9,150万円が含まれています。3番目は公債費で18億1,177万円となっています。次いで土木費、総務費、教育費、農林水産業費、商工費、消防費の順となっています。合併市町村への財政支援である歳入(特例債、補助金等)は、東部クリーンセンター排ガス高度化処理施設整備負担金、丸山晩霞記念館建設事業及びマレットゴルフ場建設事業等が主な財源となっています。

目的別の主な予算

- **議会費**
議員報酬、手当等(22名分)・・・109,785千円
議会だより発行・・・2,600千円
- **総務費**
私立学校対策事業費・・・22,000千円
国勢調査費・・・14,131千円
公共施設間ネットワーク基盤整備費・・・34,000千円
- **民生費**
保育所運営事業費(市立)・・・262,562千円
介護保険特別会計繰出金・・・248,197千円
老人保健特別会計繰出金・・・202,000千円
児童手当費・・・176,940千円
生活保護費・・・136,120千円
国民健康保険特別会計繰出金・・・115,000千円
- **衛生費**
上田地域広域連合負担金(クリーンセンター分)1,104,178千円(排ガス処理施設整備負担金含む。)
ごみ分別収集費・・・113,472千円
川西保健衛生施設組合負担金(清掃センター分)44,587千円
- **農林水産業費**
農業集落排水事業特別会計繰出金・・・340,570千円
湯楽里館等管理運営事業費・・・128,083千円
中山間地域等直接支払制度費・・・103,163千円
団体営土地改良事業 白水地区・・・29,000千円
" 布下地区・・・13,000千円
" 加沢地区・・・3,000千円
- **商工費**
ゆうふるtanaka管理運営費・・・112,630千円
芸術むら公園管理運営費・・・102,045千円
御牧乃湯管理運営費・・・53,476千円
巡回バス運行事業費・・・17,188千円
北御牧地区バス運行事業費・・・28,353千円
湯の丸高原公衆便所増設事業費・・・12,500千円
- **土木費**
公共下水道事業特別会計繰出金・・・876,808千円
特定環境保全公共下水道事業特別会計繰出金129,839千円
田中293号線整備事業費・・・71,000千円
公共サイン設置工事費・・・42,000千円
田中駅南口整備事業費・・・40,000千円
市道除雪・融雪剤散布事業費・・・14,140千円
- **消防費**
防災マップ(対策費)・・・5,315千円
上田地域広域連合負担金(消防署分)279,198千円
消防団運営費・・・77,185千円
消防施設整備費・・・6,600千円
- **教育費**
丸山晩霞記念館建設事業費・・・216,358千円
マレットゴルフ場建設事業費・・・126,250千円
小中学校校内LAN整備事業費・・・45,200千円
上八重原公民館改築工事補助金・・・33,770千円
サンテラス舞台設備改修工事費・・・21,000千円
梅野記念絵画館施設管理運営費・・・20,707千円

Key word
さわやかさを暮らしに結ぶまち
1

さわやかさを暮らしに結ぶまち (生活環境の整備)



豊かな自然環境を保全し、循環型社会の形成による地球にやさしいまちづくりを進めます。
また、快適で安全な生活環境づくりに向けて、道路、排水路の整備と鉄道駅周辺整備や新交通システムの検討を行い、治山治水、防災対策や防犯、交通安全など安全なまちづくりを推進します。

①花と緑と水のネットワークの形成

- 花と緑のまちづくり事業（緑化、生垣設置、雨水貯留槽補助等） 10,199千円
- 花いっぱい運動事業 4,895千円
- 森林地域整備活動支援事業 6,483千円
- 松くい虫防除対策事業 32,058千円
- 自然保護対策事業 1,904千円

②循環型社会の形成

- 太陽光発電設備導入助成事業 2,220千円
- I S O推進事業 1,822千円
- 東部クリーンセンター改修事業 891,500千円
- ごみ減量化対策研究委員会補助 1,000千円
- 田沢処理場汚泥減量化施設 42,000千円
- 農集資源循環統合全体計画 1,400千円

③快適で安全な生活環境づくり

- 交通指導員・補導員・少年団活動 3,494千円
- 巡回バス運行事業 20,871千円
- 新交通システム検討 3,000千円
- 小規模土木事業 55,000千円
- 地方道路整備臨時交付金事業田中293号線 71,000千円
- 市単道路改良工事 67,200千円
- 田中駅南口整備事業 40,000千円
- 排水路整備事業 12,000千円
- 公営住宅建設事業 22,240千円
- 加沢雨水管渠築造事業 114,000千円
- 防災マップ作成 1,200千円

Key word
活力を産業に結ぶまち
2

活力を産業に結ぶまち (産業の振興)



湯の丸高原、海野宿、芸術むら公園や温泉施設の活用と誘導用公共サインの整備による観光の振興を図り、地域商工業を支援しつつ、流通団地等へ企業誘致による活力あるまちづくりと各産業の人材育成を行います。また、基幹産業である農業の重要性を再認識し、地産地消や道の駅などと連携しての農産物、加工品のブランド化を進めます。

①魅力ある観光地づくり

- 景観形成事業（公共サイン） 42,000千円
- 火のアートフェスティバル事業 4,500千円
- 芸術むら公園運営 102,045千円
- 湯の丸高原公衆便所増築 12,500千円
- 海野宿観光対策事業 11,935千円

②商工業の振興と起業化支援

- 中小企業振興事業 172,180千円
- 商店街街灯整備補助 3,159千円
- 温泉複合施設管理運営 112,630千円
- 県営街路事業田中牧家線負担金 60,000千円

③多面的な機能の発揮による農業の振興

- 巨峰の王国まつり事業 5,142千円
- 農業女性海外視察研修補助 500千円
- 複合発酵活性水事業補助 2,780千円
- 新規導入ぶどう苗購入補助 500千円
- ハウス栽培振興補助 1,000千円
- 市単独土地改良事業・事業補助 36,910千円
- 団体営土地改良事業 45,000千円
- 湯楽里館等管理運営 128,083千円



東御市の基本理念と基本方針

基本理念「さわやかな風と出会いの元気発信都市」を目指し、特に「環境対策、子育ての支援と教育の安心」に重点を置いて、全ての市民が行政と協働することにより真の豊かさを実感できるまちづくりに取り組み、東御市が一体となって市民の元気を全国に発信することができ都市を目指します。

この基本理念を実現するために、自然と共生したまちづくり、一人ひとりを尊重するまちづくり、そして市民と行政の協働のまちづくりの三つの基本方針により、次のとおり平成17年度の重点施策を展開します。

Key word
未来を担う人を結ぶまち
4

未来を担う人を結ぶまち (教育・文化・スポーツの振興)



未来のまちを担う人づくりのため、幼保から小中学校、高校まで連携した、子どもたちの豊かな心と個性を育む教育を推進し、地域全体で子どもを育てる環境づくりを進めるとともに、専門教育施設の支援をします。市民が心豊かに輝いて暮らせるよう生涯学習まちづくりを更に進め、生涯スポーツのための施設整備を図ります。地域の伝統や文化の充実を図るため、海野宿、アケボノゾウなど文化財資源、文化会館の整備と郷土出身画家の記念館を建設します。

- ①生きる力を育む教育の推進**
- 私立学校対策事業 22,000千円
 - 田中小中間教室設計 450千円
 - 田中小体育館改築事業 10,500千円
 - 小中学校校内LAN整備事業 45,200千円
 - 和小30人規模学級負担金 2,500千円
 - 小中学校就学支援 12,314千円
 - 給食材料検収室設置 7,231千円
- ②文化を育むまちづくり**
- アケボノゾウ保存事業 3,142千円
 - 伝統的建造物群保存事業 27,086千円
 - 丸山晚霞記念館建設事業 216,358千円
 - 文化会館舞台機構改修 21,000千円
 - 文化会館自主文化事業 29,922千円
 - 梅野記念絵画館管理運営 20,707千円

- ③学びあい、教えあいの推進**
- 生涯学習まちづくり事業・推進 13,739千円
 - 上八重原公民館施設整備補助 33,770千円
 - 滋野コミュニティーセンター建設研究委員会 315千円
 - 青少年センター運営 1,603千円
 - 新図書館ネットワークシステム 15,658千円
 - 読書施設運営 9,809千円
 - マレットゴルフ場建設事業 126,250千円



Key word
健やかさ・安心を結ぶまち
3

健やかさ・安心を結ぶまち (保健・医療・福祉の充実)



福祉の森、ケアポートみまきを拠点とする保健・医療・福祉の一体化を推進し、まちぐるみ健康づくりの推進や医療体制の充実、高齢者や障害者、児童などすべての住民が健やかで安心して暮らせるまちづくりを進めます。

- ①安心できる保健・医療・福祉体制づくり**
- 知的障害者自律生活体験事業 1,502千円
 - 児童居宅支援 3,890千円
 - 生活管理指導員派遣事業 3,121千円
 - 配食サービス・弁当助成事業 21,004千円
 - ケアポートみまき改修事業補助 5,000千円
 - 老人・障害者・児童福祉医療費助成 123,120千円
 - 市民病院事業会計繰出金 108,672千円
- ②まちぐるみ健康づくりの推進**
- 保健補導員会 2,635千円
 - 検診事業 36,267千円
 - 人間ドック補助事業 2,250千円
 - 身体教育医学研究所補助 9,280千円
 - 亜鉛欠乏対策事業 8,078千円
 - 糖尿病予防事業 1,012千円
 - 総合福祉センター喫煙所設置 1,000千円

- ③地域で支えあう福祉のまちづくり**
- 共同作業所運営 21,652千円
 - 知的障害者授産施設整備補助 5,040千円
 - 若者定住促進事業補助 6,500千円
 - 田中宅幼老所建設費補助 7,500千円
 - 児童手当 176,940千円
 - 生活保護 138,974千円
 - 休日保育事業 1,020千円
 - 第3子以降の3歳以上児保育料半額(歳入12,500減)
 - 保育キーパー設置 9,683千円
 - 子育て支援センター管理運営事業 9,408千円



Key word
支えあい夢を結ぶまち
5

支えあい夢を結ぶまち (住民と行政の協働)



社会政治経済が変貌する中で理想のまちづくりを進めるためには、行政の役割の見直しと住民参加がますます重要になっており、合併による自治体としての基盤を確実に強化した上で、市民一人ひとりの参画を促すことが必要です。そこで、行政は市民に情報を十分に伝えるとともに市民の意見要望を的確に把握し、市民は自治会などの地域活動のほか、より良いまちづくりのために自らができることを進んで実践し、男女の別や国籍にとらわれず全ての市民が等しく参画できる住民と行政の協働のまちづくりを進めます。

- ①男女共同参画の推進**
- 男女共同参画プラン印刷 900千円
 - 男女共同参画フォーラム開催 550千円
- ②国際交流の推進**
- 生活相談事業(外国語コミュニケーター) 3,056千円
 - 国際交流事業 7,585千円

- ③住民と行政の協働のまちづくり**
- 行政改革推進 1,176千円
 - 公共施設間ネットワークシステム整備事業 34,000千円
 - 自治推進委員会 19,087千円
 - 市報・お知らせ版発行 18,589千円
 - 新情報通信システム研究事業 1,705千円
 - 地域づくり活動補助事業 4,660千円
 - 地域づくりサポーター配置事業
 - ふれあい市長室開催、私のひとこと事業
 - 地籍情報管理システムデータ作成 26,000千円
 - 市民夏祭り・地区夏祭り事業 6,500千円

2月26日から3月5日まで2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会が長野市で開催されました。みんなに感動、勇気を与えてくれたこの大会は、知的障害者の皆さんが繰り返し広げるスポーツの華やかな祭典と同時に、知的障害者のみなさんをより多くの人たちに知っていただき、地域社会の中での活動ができるようにしていくことが目的にあります。

障害や国境を越えた心のバリアフリーの社会を築き上げるためには、みなさんの協力が不可欠です。

この特集から何かを感じて欲しい。そして、その感じたことを何らかの行動に移して欲しいと切に感じます。

皆で集い、共に楽しもう Let's Celebrate Together!

特集 2 スペシャルオリンピックスは 問いかける

～知的障害者のみんながアスリート、みんなが金メダル～

Special Olympics in NAGANO

- ①2004年第3回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・長野の開会式で進行する選手団
- ②銀メダル獲得で喜びを表わす選手たち（ガッツポーズする関智徳さん）
- ③試合が終わり、応援団に感謝の気持ちを表わす選手たち
- ④2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会での世界フロアホッケーの試合の様子



せき だいすけ
関 大輔さん

関さんは、昨年の2004年第3回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲームフロアホッケー個人スキルに参加し、5位の成績を残しました。しかし、今回のスペシャルオリンピックス世界大会には出場せず、開会式への参加、試合の応援とホストタウンプログラムでの協力をしました。

今回のホストタウンプログラムで香港チームの皆さんとの交流を楽しみに待ち望んでいた一人です。選手たちの予定が時間どおりに決められていたため、家での交流時間は短いものでしたが、ジェスチャーと持ち前の明るさで選手や家族を笑わせたり、「お姉ちゃん」などと会話をしたりして楽しめました。関さん自身、「いい体験ができ、良かったです」と話します。

現在は、さんらいずホールでの仕事が終わるとケアポートみまきアクティブセンターへ大好きな水泳に行きます。「あまり闘争心をむき出しにする方ではないため、チームプレイよりも個人プレーで競技を楽しもうが力を発揮する方だと思います」と周囲の皆さんは話します。今後はバスケットなど、もっと積極的に行っていきたくないと抱負を語ってくれました。



せき ともり
関 智徳さん

3月4日に行われたフロアホッケーの試合において、関さんが所属するチーム「ブルー・ベアーズ」は決勝戦でキプロス国と戦い、敗れはしたものの、銀メダルを獲得しました。キプロス戦での感想を「相手は強かった。でも、1点は入れたかったです」と試合を振り返ります。大会については「このスペシャルオリンピックスに出場できて本当に良かったです。フロアホッケーを熱心に教えてくださったコーチ、ボランティア、会社、応援していただいた皆さんに感謝したいです」と話してくれました。

「次の目標は、SO夏季大会が上海で行われますが、その大会ではバスケットの選手として参加したいです。その前大会として熊本でプレ大会があるので練習をしていきたいです。また、次期2009年のサラエボ冬季大会へも参加したいです。もしできるのであればスキーにも挑戦していきたいです」と抱負を語ってくれました。

念願のメダルを獲得。今後はバスケット、スキーにも挑戦していきたい。

選手たちを応援、ホストタウンプログラムでスペシャルオリンピックスに参加

※アスリートは「選手」のことです

動と勇気をいただきました。世界各地のアスリートから多くの感動と勇気をいただきました。

場なので、一人ひとりが金メダルなわけです。今回の大会を通して、世界各地のアスリートから多くの感動と勇気をいただきました。

嬉しかったです。

アスリートがフロアホッケーに出場し、銀メダルを獲得したという結果を聞いた時は、自分のことのように嬉しかったです。

アスリートがフロアホッケーに出場し、銀メダルを獲得したという結果を聞いた時は、自分のことのように嬉しかったです。

私たちが親子でSOに携わることができ、貴重な経験をする事ができました。娘は2000年に行われたSO大会にボランティアで参加し、私は途中から参加しました。主に、上小地区から障害者が集まり、「上田プログラム」の中でアスリート※の技術レベルを段階的に確認し、アスリートとして出場できるように指導していく活動に携わっています。

今大会のフロアホッケーに娘と私は月3回のコーチボランティアとしてアスリートと一緒に練習を行ってきました。SO開催期間中、私は会場ボランティアとして会場案内や会場整理をし、娘は休憩所で飲み物サービスなどのボランティアをしました。「上田プログラム」から5人のアスリートがフロアホッケーに出場し、銀メダルを獲得したという結果を聞いた時は、自分のことのように嬉しかったです。



わたなべ やすこ(左)
渡辺 康子さん(常田)
すみえ(右)
純英さん

スペシャルオリンピックスは、世界84か国と地域が参加。選手団約2,600人(アスリート約1,800人、コーチ約800人)(うち日本選手団150人(アスリート109人、コーチ41人)ファミリー約1,200人ボランティア約8,500人メディア約1,000人と合計約1万3,300人※のみなさんが携わりました。アスリートを支えるボランティアの人たちが多いのもこの大会の特徴です。

それぞれに携わった人たちから話を聞きました。

※資料：NPO法人2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会実行委員会

アスリートを支えた人たち



- ①上田プログラムのフロアホッケーの皆さんとボランティアの皆さん
- ②今大会の会場を飾ったアートフラッグ。県下から2000枚以上が集まった。東御市でも数多くのアートフラッグがつけられた。
- ③2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会での開会式の様子
- ④閉会式でボランティアの立場での感想をスピーチする小田中さん



- ①ホストタウンプログラムでの関大輔さんのお宅でのひと時
- ②ホストタウンプログラムでの笹平さんのお宅での記念撮影
- ③バスケットボールを練習する関大輔さん
- ④知的障害者の皆さんが構成する太鼓の会スキップによる太鼓の演奏(交流会にて)
- ⑤香港選手とのふれあいのひと時
- ⑥中央公民館でのホストタウンプログラム交流会での記念撮影。(写真は笹平さんのお宅のテーブル)

障害のある方への理解や支援の輪が広がって欲しい

障害のある方への理解や支援の輪が広がって欲しい。障害のある方への理解や支援の輪が広がって欲しい。障害のある方への理解や支援の輪が広がって欲しい。

開会式の入場前に並んでいて、それ違う時に手と手を合わすハイタッチが自然にできたり、トイレに案内する行き帰りにアスリートが「ありがとう」という気持ちを笑顔やジェスチャーで表わしてくれたりして本当に嬉しかったです。参加させてもらって良かったと感じました。

アスリートの皆さんは確かに苦しいことがあるので適切な支援が必要ですが、「してあげなきゃ」という気持ちで強くなるのではなく、笑顔で、温かな、前向きな気持ちで自分ができることを「さりげなく」できたら、アスリートの皆さんの純粋な明るい笑顔を見ることができ、すごいパワーをもらい、また頑張れる自分がいるのを感じます。



おだなか みおる
小田中 稔さん
(城ノ前)

私、普段は上田の養護学校に勤めています。卒業生がアスリートとして参加することから、「私も何かできないか？」と思い、アスリートを駐車場から開会式や閉会式に誘導したり、トイレに案内したりというボランティアをしました。

開会式の入場前に並んでいて、それ違う時に手と手を合わすハイタッチが自然にできたり、トイレに案内する行き帰りにアスリートが「ありがとう」という気持ちを笑顔やジェスチャーで表わしてくれたりして本当に嬉しかったです。参加させてもらって良かったと感じました。

私の中で、スピードスケートに参加する女性2人と副団長、日本の通訳一人の計4人が宿泊しました。一番気に入ったのは、日本の「寒さ」です。うちは築85年と昔風の家屋なので心配しました。でも、選手たちは「日本のトラディショナルな家に泊まれてラッキー」と言ってくれて安心しました。いろいろなお話で興味を持ち、家の間取り、お節句で飾ってあったお雛様、こたつ、日本食などの日本文化、習慣、風習についていろいろ聞いてきました。また、夫は30年前のスケート靴を探してきて、彼女たちの靴と並べて写真を撮ったり、子どもたちにスケートを教えたことや当時のアルバムを見たりと楽しい3日間を過ごしました。

30年前にラジオで聞いて心に残っていることがあります。それは宮崎県にある障害者コロニー施設の話ですが、施設の設備などに対する要望を訪ねたところ、施設長は「施設の充実よりはこの人たちが普通に社会に交じって生活できることが大切なんです」と話していただきました。今回のステイがそんな一助になればと思います。

今後も手紙などを通じて交流が深まりそうです。また、様々な大会で日本にも来るようなので、再会を楽しみにしています。



さきだいら ちかこ
笹平 千賀子さん
(下八重原東部)

30年前に聞いたラジオが香港選手を受け入れるきっかけに

知的障害者とは・・・

知的障害者とは、発達途上（おおむね18歳まで）において、知能が平均よりも明らかに低い状態をきたし、そのために年齢にふさわしい自立や社会的責任を果たすことが十分にできない障害を持つ人のことをいいます。その判断基準は以下のとおりです。

程度	判定	IQ値の目安	備考
重度	A1	IQ 35以下	判定の基準は、基本的には、 ①知的障害者の障害があること（知能指数がおおむね70以下） ②その障害が発達期（通常18歳までに）に生じたものであること ③知的機能の障害のために社会適応面で障害をきたしていること となっています。
中度	A2	IQ 36～50 3級以上の身体障害も併せている方	
中度	B1	IQ 36～50	
軽度	B2	IQ 51～75	

Special Olympics Nagano

スペシャルオリンピックスは盛大に終わることができた。
新聞、テレビでも連日話題に取り上げられた・・・

しかし、その後はどうだろうか・・・
知的障害者の皆さんへの理解は深まったのだろうか・・・

このスペシャルオリンピックスを
単なるお祭りで終わらせてはいけない。

知的障害者の子を持つ親の悩みを語る。



せき とよはる
関 豊春さん

「ここまでの道のりは遠かったですね。」と話す関さん。関さんは、フロアホッケーに出場した関智徳さんのお父さんです。智徳さんがスペシャルオリンピックスに出場し、銀メダルを獲得しましたが、これまでの苦労は計り知れなかったことでしょう。今回の大会を知的障害者を持つ親の立場として今後の課題について話していただきました。

SOで知的障害者を多くの人たちに理解いただけた

その当時、「知能指数を伸ばそうとしても無理だよ」と養護学校で言われたときにはショック

多くの人たちに理解していただけたと思います。

これまで、障害者が外に出てもなかなか社会で認めてくれる場所や機会はありませんでした。また、親としてもこのような大会をこれまで知らなかったため、子どもを表に出す活動の機会をつくることに努力が足りなかったと感じています。

障害者を持つ親の悩み

障害者を持つ親として今後の一番の悩みは「親が亡くなった時にこの子を誰が支えてくれるのか」ということです。障害者は自分で判断をくだすことができにくいのです。ある程度の生活はできても、その範囲が狭い。智徳はお金は使えるけど、どうやって管理し、どこまで使ったらいいかを考えることが非常に難しい。心配していることの一つを紹介しましたが、親が年をとるとともに、子どもの将来を心配しながら、相談をどのようにしたらよいか、悩んでいるのが現状です。

そんな中で、今回の大会では子ども同士の交流もありましたが、家族同士で悩みをお互いに話すことができる機会にもなりました。

クでした。可能性を否定されたように感じたのです。でも、スペシャルオリンピックスに参加でき、しかも銀メダルをもらえて本当にうれしかったです。今回の大会では何よりも智徳自身にまわりの人に認識してもらったこと、声をかけてもらったこと、そして一人の人間として見てもらったことがものすごく嬉しかったことだと思います。

これまで知的障害者に対する見方が、ややもすると間違った見方、先入観による見方をする人たちがたくさんいたのではないかと思います。

しかし、今回のスペシャルオリンピックスでは知的障害者を

地域内での交流に期待

今、知的障害者の親として望むことは、子どもが生活する場所では自分の生まれたところ、育ったところが一番だと思います。小さい時から地域の人たちと交流ができ、理解していただける人が多くいることが、とてもありがたいことなのです。

そのためには、知的障害者が社会参加できるような活動や交流の場を多く持つように指導者、支援者が欲しいのです。このような人の確保に地域の力をお借りしたい。東御市には知的障害者が157人います。（3月22日現在・福祉課調べ）この状況の中で、他市町村に先駆けて、知的障害者の授産施設、グループホームなどの整備、そして雇用の面でも支援いただき、恵まれていると思います。

しかし、もう一歩踏み込んで、働く場の確保による経済的な安定、知的障害者と交流できる機会の増加などにより、障害者に対する理解がさらに深まり、地域の中で自立して暮らすことができるまでちへと期待したいです。



学校内で知的障害者と一緒にスポーツしたり学んだりする機会をもっと増やして欲しい
スペシャルオリンピックス国際本部 会長兼最高経営責任者（CEO）
ティモシー・P・シュライバーさん（アメリカ）

シュライバーさんは2月24日、東御市を訪れ、さんらいずホールやフォーレストなどを視察し、知的障害者の皆さんとの交流も行われました。

また、東部中学校にも来校し、池田亮一校長先生、柳澤英夫教育長との間で、知的障害者をめぐる教育の現状やあり方について話し合われました（写真右）。

シュライバーさんは、「学校内で知的障害者の皆さんとスポーツを通じて楽しむことを行っていますか。レベルに合わせて知的障害者とプレーする機会を設け、場所の提供を積極的に行って欲しい。それはスポーツに限らず、音楽、美術なども同様に行い、もっと日常的に行って欲しい。」などの要望をしました。

スペシャルオリンピックスのホームページでは「アスリートたちからいただいた力を持ち帰り、人々の心をより良い方向へ変革していくためにこの大会を活用していただきたいと思っています。」と語りかけています。

さらに、長野県の人たちへのメッセージとして、「障害者のみなさんへの扉を開いてくれたことに感謝している。今大会を機に、長野県や日本の社会が家族や学校、地域を巻き込み、知的障害者の期待に応えていくことができると信じている」と話していました。（2月24日、信濃毎日新聞社での会見にて）



←市内障害者施設「さんらいずホール」の中にあるパン工房を見学するシュライバーさん

「本当の支援とは何か」

さんらいずホールの歩み。

東御市内に住む知的障害者の皆さんを受け入れる施設として「さんらいずホール」があります。知的障害者のみなさんはこの施設でどんなことを学び、活動しているのでしょうか。その経緯と取り組みを聞いてみました。

毎日働き、通える場所として

約4年前、「東部町に住む知的障害者が毎日働きに通える場所を」との要請から社会福祉法人ちいさがた福祉会が設立した当施設は開設されました。

その前準備として、一人ひとりと顔を合わせ、その声をお聴きすることから始まりました。10年以上もの就労経験がありながら、事情により家庭で過ごしている人。養護学校卒業を控えている人。進路が決まらずに不安を感じている親子など…。

そんな皆さんのためにさんらいずホールがすべてを受け入れることができた。そこで、私たち職員の仕事は何よりも彼・彼女たちの「あるがまま」をすべて受け入れ、認めることから始めました。

問題・課題の山積、試行錯誤の連続

当初、「パン工房」「クリーニング工房」「何でも工房」の3工房により、私たちの毎日が始まりました。家族以外の、しかも

性別や年齢、暮らす地域も違う30人が協力して作業に取り組みました。相性が合わない、自分の思いが通らない、自信が無く大きな声で返事ができない…。誰もがそれぞれ新しい課題に突き当たりました。職員も同様に議論と試行錯誤の繰り返しでした。



さんらいずホール 地域生活支援ワーカー 宮尾 彰さん
さんらいずホール 施設長 茅野 隆徳さん

自身で考え決定する環境を提供

私たちが何よりも大切にしたいのは、作業に参加する利用者自身が自

分で一日を組み立て、考えることができる環境を創ろうということでした。そこで利用者自身が働く工房を自己決定することにしました。それまでは、周囲の判断で自分の行き先が決まることの多かった彼・彼女たちが、少しずつですが確実に動き出したのです。工房の作業内容も、年月の経過とともに変わりました。メニューは「もっと新しい、自分に合った作業がしたい」といった利用者からのリクエストから常に問い直され、改められました。更に昨年度からは「支援費制度」という、支援をひとつのサービスと捉える新しい視点で導入されました。

また、長野県では、国に先駆けてさまざまなサービスが模索されています。その中心にあるのが「施設から地域へ」という地域支援です。それは①グループホームによる「生活する場所の提供」②ジョブコーチによる「働くための支援」の二つを柱にしています。

「家から離れて地域で自活したい」「自分も就職して自分のお金で自由に買い物ができる」という願いは、さんらいずホールの利用者にも強くあります。三つの工房だけでは皆さんか

らのニーズに応えることができない状況になってきたのです。

知的障害者の就労場所を拡大

そこで施設内就労支援が誕生しました。

- ① 身障デイサービスの浴室清掃
- ② パン工房の販路拡大と接客訓練を兼ねてのパン屋の開店
- ③ 同じ法人内のフォーレストに出張する清掃業務

の3つです。最初は声を掛けても乗らなかつた利用者が、気が付けば仲間を呼び合い、今では各コースで職人がそろうほどになりました。

更に昨年は県が推進している障害者3級ヘルパー講座を開講し、施設内外から12名が受講しました。全員が無事修了し、現在それぞれの目標に向けて挑戦を続けています。うち11名は実践能力習得訓練コースを受講し、より一歩就労へと近づいています。

地域に密着した支援の提供を目指して

この数年間、私たちは計画や予想を超えた利用者の成長ぶりや変化に励まされながら歩いてきました。

これからも、ここ東御市に障害者の笑顔と笑い声もっと広がるために、より地域に密着した支援の提供を目指していきます。市民の皆さん、お店で、公園で、通勤途中の細道で、私たちにお声掛けください。きっとそこにはさわやかな風が吹くことと確信しています。

平成17年度さんらいずホール支援サービスモデル

※この支援モデルは「さんらいずホールの歩み」と合わせてご覧ください。4年半の試行錯誤の中から練り上げられ、このような形ができあがりました。しかし、まだまだ発展途上の営みです。今後も利用される方々からのニーズに対する応答として、より具体的な、より豊かな支援モデルを模索していきます。

地域へ

サービス・マネージメント

一市民として地域で暮らすためのお手伝い

地域支援

田中地区の円居は男性4名、和地区のやわらぎは女性5名の定員です。区費を納め、自治会にも加入します。施設は地域住民の皆さんと入居者の橋渡し役として、世話人と連携をとりながら地域との交流を図ります。



就労支援

障害者ヘルパー3級講座 開講

県の技術専門学校からの民間委託事業です。施設では提供できない専門的な技術や知識を、講師を招いて勉強します。地域在住の障害者にも広く門戸を開いています。



フォーレスト 清掃委託 毎日2名が交代で廊下、居室をモップと洗浄機でお掃除します。	フォーレスト 配食弁当配達 ひとり暮らしのお年寄りに、利用者が笑顔と一緒にお届けします。	「ダーチャ」パン販売 ステキなお店では毎日20種類以上のパンが売られています。	身障デイ風呂掃除 毎日交代で3名がお掃除。デイ利用者・職員からも好評です。
---	--	---	---

施設外実習

施設内実習

パン工房 成型・焼き作業・販売・洗いもの 毎日25〜30種類のパンを200個以上焼いています。屋には出張販売もしています。	クリーニング工房 タオルたたみ タオル納品・染み抜き 上下小地域のビジネスホテルのタオル類はここできれいになります。	何でも工房 創作活動・新づくり 下請け・個別対応 切出しから仕上げまで手作業の薪を一束320円でお分けします。
--	--	---

作業支援

(自己決定・自己実現の尊重をしています)

生活支援

(日常的な生活支援と相談をしています)

通うためのお手伝い (自立支援・金銭管理 身辺介助・清掃作業支援) 毎日朝と夕方に送迎車が回ります。各自がロッカーを管理します。	イベント企画お楽しみ (余暇支援・行事の計画 パソコン教室) 地域行事への参加、土曜日の余暇支援、他施設との交流などです。	心と体のケア (健康管理・健康診断 体重測定・献立表の配布) 看護師の健康相談、体重測定、定期検診により健康を支えます。
--	---	--

平成17年度支援サービスモデル

やわらぎ(グループホーム)



円居(グループホーム)



ダーチャ (パン工房)



さんらいずホール (障害者複合施設)



手づくりパンを販売しているダーチャ。そこにはいつも笑顔があります。

ホイップサンドメロン アンパンマン コロケパン

地域社会での活動と交流

知的障害者のみなさんは、自身のレベルによりトレーニングを重ね、仕事や生活を通じて自立し、地域で生活できるよう、日々頑張っています。そんな皆さんを受け入れる施設として、「さんらいずホール」や「ダーチャ」があります。また、知的障害者の皆さんが地域で生活できるための施設として、「円居(まどい)」「やわらぎ」の2つがあります。これらの施設を紹介します。

三角屋根が目印、ログハウス調のお店の名前は「ダーチャ(ロシア語で小さな別荘)」です。ここでは、主にさんらいずホールで作られたパンの販売を行っています。

商店街の皆様の温かいご配慮に支えられ、田中商店街の一角をお借りしながら約2年半にわたり営業してきた「パン工房・田中店」は、都合により昨年の秋に閉店となりました。その後、昨年の暮れに中央公園横、グリーンパーク通りにあった旧「みるくの館」の跡地を借りて、パン屋三号店がオープンしました。

知的障害を持つ彼女たちが毎朝看板を掲げ、陳列棚を拭き、商品を並べ、お掃除を済ませてお客様をお迎えすることが定着し、接客のトレーニングを重ねることでお金の受け渡しやレジスターの扱いも身に付きました。

また、ダーチャが開店する時に、4名が販売業務の訓練を始めました。これは県の技術専門学校からの委託を受けた「実践能力習得訓練コース」の一環として行っているもので、この訓練から多くのことを学んでいます。東部・湯の丸インターチェンジに近いこともあり、車で来店されるお客さんも多く、毎日明るい笑顔がこぼれています。

施設から一歩出て、地域の皆さんの生活の場へと積極的に活動することで、障害に対する不安や誤解がとかれ「当たり前」の生活に向けた自信を着実に付けることができるようになることを関係者一同望んでいます。

どうぞ、皆さん、お近くをお通りの際はぜひともお立ち寄りください。

やわらぎ



円居に続いて市内二つ目のグループホームが和地区栗林に開所しました。ここは主に女性の方々のニーズに応えています。また、県が進める地域移行施策に沿って西駒郷入居者の受け入れも実現しました。

昼間の活動と合わせて炊事・洗濯・お掃除など自立した生活に向けた支援を目指しています。「やわらぎ」は日本古来の茶道の心から拝借しました。地域の皆さんもお気軽にお立ち寄りください。

まどい
円居



東御市初めての知的障害者のためのグループホームですが、開設から1年と数ヶ月が過ぎました。当施設は初めての事業でしたので、不安もありましたが、田中区田町地域の皆さんからあたたかいご理解とご協力をいただき、入居者4名は安定した自分らしい生活を送っています。

世話人と施設との連携体制により、今後ますます増えていくニーズに応えられるよう努力していきます。

さんらいずホール



東御市(旧東部町)内に「知的障害を持つ方々が自分らしさを発揮して一日過ごせる場所を」という要請から開所してから4年が経ちました。日々の作業内容は17ページのとおりですが、参加する利用者の意欲と実力は、当初に比べて飛躍的な向上が見られます。「きっとできないだろう」という憶測から一歩踏み出してさまざまな挑戦をするなかで思いがけない、驚くべき結果が生まれてきています。

私たちがも地域のために頑張っています



だんのほら 檀ノ原 錦也さん

ダーチャの別室で毎日お弁当の盛り付けをがんばっています。就職を目指して一つひとつ新しい仕事に挑戦したいです。



おきはら とおる 萩原 徹さん

東御中央公園内でゴミ拾いやグラウンド整備もやります。土曜には老人施設で将棋をさすボランティアをしています。



おぎそ まさお 小木曾 政夫さん

東御中央公園内の施設整備をしています。一年と少し経ちました。毎日歩いて通うのにも慣れました。体に気をつけて休まないで勤め続けたいです。



しみず あけみ 清水 明美さん(常田)

市役所内でも販売しているので、利用しています。作っている人の温かい愛情入りのパン。母親として、子どものおやつにとでも助かっています。ずーっと続けて欲しいです。



しみず なおこ 清水 直子さん(田沢)

いろいろな種類のパンがあっていいですね。生地はパン屋のパンと同じなので、とてもおいしいです。保存料などの添加物が入っていないので安心して食べられますね。



きたむら りつこ 北村 律子さん(乙女平)

孫のおやつに買っていったりよく利用しています。アンパンマン、スノーマンなどおもしろいパンなど豊富にあり、いいですね。また食べたいパンです。

パンを購入する皆さんから聞きました